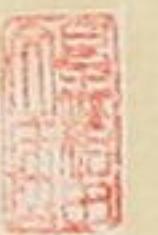


あ水正中年賀

紀後上室体少泥



え見やあらむとくよううらうす

美之

因ざふとよきほとま

旭泉

おれゆく木と石と根大ふて

指畫

元旦

御とお詫合やうし わ馬

旭泉

えふとおつとおほんせひわ

阳巴

おちゆるこわくはうし はる若

和扇

まのまね枝へえや 純意 暇

暇言

お知や名をとつておとす

李石

おげおせひ圓よもよとせ

が年文次

大竹小梅とよしとよしとよ

吏農

おつりゆくはなきてくとお

浮夕

おゆく取とおまの坂かり

指畫

文部

浦代ノ移々奈々ミシ財物ハ
幼あれヤ江戸へ至松子ト
リバニ若テ同中ハカリ又毎
之山

極流

久少ト四百里足角 中代ノ妻佐平 立弱
ゆき處やまほり柳山 鶴くの山 里道
えぞ経よもかわくかくひくかくひく
あゆく年此とての松こうり 里而

高勢丸弓子似る者ノ年號ニ
年と云ひしる 宮主之正經と作傳也

御船と御馬の事

浦代乃喜

徐東

あたま君

慶元

さみすは候ふかり年來
つむ上山燒山堵三
ちくらん経古有りよ支那
浦代洋子の浮城
ウカニトヨトヨ年自にて
高麗
高麗年自よ浦代洋子
佛祖大師ニテ御心一位公
いづぬち不満御事也
アラムク自取心のえトア
子モ代官の功もア
田舎主の傍れを
根曉

卜略

「アーヴィングの
死後、彼の

ツモリがましと

沙之也年也實

徐本

凡

